**教育メディア学会研究会論集テンプレート（2023年度版）**

視覚　教示（日本教育大学メディア開発学部）

自律　学（日本教育大学メディア開発学部）

相互　琢磨（国際メディア大学メディア関連学領域）

日本教育メディア学会研究会の論集のテンプレートです。2023年度より論文誌にあわせて大幅に変更になっていますので注意してください。発表予稿集は，冊子での配布はせず，Webサイトで公開しています。枚数は4頁から10頁までの範囲で執筆ください。タイトルは，MSゴシック体（ここだけ論文誌と異なります）で12ポイント，中央寄せです。著者名・所属は，MS明朝体で9ポイント右寄せです。英文タイトル・著者・所属は論文末尾にTimes New Romanを用いて9ポイントで記載します。要旨は，明朝体8.5ポイントで，両端揃えです。改行幅は固定で14.3ポイントになっています。文字数の目安は400字程度です。要旨の下には１行あけて，キーワードをMS明朝体9ポイント，６個以内でつけてください。「キーワード」の見出しはゴシック体です。○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○（400文字）

キーワード：日本教育メディア学会，メディア研究，ひな型，テンプレート

**1．はじめに**

ここから本文です。横20字×縦43行の二段組みです。本文は，MS明朝体9ポイント・両端揃えです。各段落の最初の1文字分を字下げします。表記は，引用文を除き，常用漢字･新送り仮名を原則とします。句読点は，「，」「。」を用いてください。

数字・欧字は，すべて半角に統一します。ただし，固有名詞や慣用句の数字は漢数字のままで構いません。年代表記は西暦とし，元号を用いる場合は「西暦（元号）」と併記します。人名は，初出の場合は氏名表記とし，再出では氏のみの表記とします。なお，外国人の場合はカタカナ表記とし，丸括弧で欧字表記もつけます（例：ジョン・デューイ（John Dewey））。

**1.1.　見出し**

本文中の見出しは，MSゴシック明朝体の太字（ボールド）9ポイントです。下位の小見出しも，同じです。見出しと本文の間は１行あけます。ただし，下位の小見出しがある場合は，本文との間はあけません。見出しの構造は次のようにしてください。

**1.　見出し**

**1.1. 小見出し**

**1.1.1. ○○○○**

**1.2.** **図表の扱い**

図，表，写真などは，原稿にレイアウトした状態でお送りください。図表は貼り込むときには，テキスト（文字列の折り返しで「行内」）として挿入します。ただし，本文の改行間隔が14.3ポイントに固定されていますので，ごく一部しか表示されません。図表を挿入する段落の行間を「１行」に変更してください。

大きさによっては，段組を越えて配置する必要があると思います。その部分だけ，レイアウトを変更して段組を解除してください。２段組を解除するのは，原則，ページの最上部あるいは最下部に配置してください。

**1.2.1.　図表のタイトルの扱い**

図，表，写真には，それぞれタイトルをつけてください。タイトルはMSゴシック体の9ポイントです。表の場合は，表の上の行に中央寄せ，図，写真の場合は下の行につけて，左寄せにしてください（図１）。

テーブル

自動的に生成された説明

図１　図表のレイアウトイメージ

**2．参考文献**

**2.1. 本文中の参考文献の記載**

本文中での参考文献の引用は，次のようにします。

(例)

KUBOTA(2020a)は………

IKUTA（2020）は………

………といっている (KUBOTA 2020b)。

………といっている（生田 2020）。

なお，著者が2名以上の場合，下記のような表記とします。

2名：(久保田・生田 2020) あるいは (KUBOTA and IKUTA 2020)

3名以上：(久保田ほか 2020)　あるいは (KUBOTTA et al. 2020)

**2.2. 参考文献の一覧**

論文末尾に設ける参考文献の一覧は，論文誌「教育メディア研究」と同様です。著者のアルファベット順，同じ著者の場合は西暦順に記載します。邦文の場合は日本教育工学会の方法を参照し，英文の場合はAPA（American Psychological Association）に準拠しています。

　本文中で引用あるいは参照している文献のみを挙げてください．参考文献一覧は，MS明朝，9ポイント，左寄せで記述します。2行以上に渡る時は，2行目以降を2文字分字下げしてください。以下のように記載します。なお，URLはワープロソフトの機能により自動的にハイパーリンクが付されることがありますが，ハイパーリンクを削除するか，あるいはアンダーラインを表示させないようにします。

参　考　文　献

KLAHR, D. (2000) Exploring Science. The MIT Press, Cambridge MA, pp.10-20

文部科学省（2020）教育の情報化に関する手引　追補版，https://www.mext.go.jp/ a\_menu/shotou/zyouhou/detail/mext\_00117.html　（参照日 2023.04.30）

新村出記念財団（2008）広辞苑第６版．岩波書店，東京

日本教育工学会編（2011）教育工学事典－教授方略－.実教出版，東京，pp.210-213

山田太郎（2008）教育工学の研究．日本教育工学会論文誌，32(2)：1-5

**※論文末尾に英文タイトル，氏名，所属を忘れずに記載してください(この文言は削除すること)。**

Template of The Study Meeting Reports of JAEMS

SHIKAKU Kyoji (Nihon Kyoiku University)

JIRITSU Gaku (Nihon Kyoiku University)

SOGO Takuma ( International Media University)